

「2022年市子連みんなでつくる音楽祭」事業の取り組みから

近江八幡市子ども育成者連合会

【自己紹介】

私は自分の子どもが小学校の時、学区の役員として参加して以来15年間本部役員をさせてもらっています河村です。

【市子連の紹介】

近江八幡市子ども会育成者連合会は、1967年に発足、今年で56年目を迎えています。現在加盟している小学校は12校のうち4つの学校です。

私たちの活動の位置づけとしては、子ども達は、自分が自分でいられる安心の場と、やりたいことができるチャンス、それを支える仲間の存在があれば、驚くほどそのパワーを発揮します。

まさしく本会が昨年度開催いたしました、みんなでつくる音楽祭において、人と人との出会いを通して、繋がりあえる仲間をつくる力を育てることができました。

ひとつひとつの事業を行うにあたっては、できる限り子ども達で企画から実施まで行うことに心がけています。また、青年が子どもの健全育成に果たす役割にも注目し、参加していただいています。また、昨年度より市老人クラブとのコラボ事業にも着手しています。

今日、私が発表するのは、皆さんもご承知の通り、子どもの権利条約の基本的な考え方の4つの原則のうち、「子どもの意見の尊重」に私の発表が少しでも関係するのではないかと思います。

昨年度は、長く続いてきたコロナ禍でも、子どもたちが楽しく取り組み、元気を発信できる活動はないかと考えたのが、市教育委員会共催のもと開催いたしました「みんなでつくる音楽祭」でした。

先に結論からお話しすれば、参加した子どもたちをはじめ、多くの方々に感銘を与えたものとなり、次年度以降も開催をとの声をいただきました。

みなさん、ギターを弾いたことがない子ども、ドラムをたたいたことがない子ども、人前で歌ったことのない子どもたちが集まり、音楽祭を行う・・・その先を考えられるでしょうか？私たちも考えられませんでした。

子どもたちが集まり、音楽講師の先生方とのコミュニケーションを取りながら動き出しました。先生が子ども達の出す自由な意見を、子ども達ひとり一人の発達に合わせることに十分な考慮をもって関わってくださったことで、先生と子ども達、また子ども同士のお互いの信頼と協力が生まれました。このことなくしては進まなかったと思っています。

正味の練習時間は約2ヵ月でしたが参加した人も、見に来られた人も関係者も成功だったと思われたと思っています。講師の先生方は、近江八幡市在住や市内の学校の卒業生であられ、本当に子どもたちとつくりあげる音楽祭にさせていただきました。この先生方が本年度もやろうと言ってくれています。

ここで、音楽祭当日の感想やその後メールなどでいただいたものを紹介します。

①ダンスに出場の女の子の感想

老人会のおばあちゃん達や、育成会の保護者の人達に、「ダンスうまいね」とほめてもらえて、めっちゃうれしかったです。普段は褒められないので、ほんまにうれしかったです。自分に自信をつけてくれた音楽祭でした。来年も音楽祭をやるならぜひ声をかけてくださいね。やりたいです。(彼女は本年度も参加してくれます。)

②楽器演奏、合唱、手話に参加した女の子の感想

初めての楽器や、学校を越えた仲間との交流、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。最初は緊張しましたが、進行していくうちにすごく楽しくなって、最後は終わりたくないっ！ という気持ちでいっぱいになりました。本当に一生の思い出になりました。

③会場に来られた方々からの感想

子どもたちが、短い期間、限られた時間で練習して頑張った成果を発揮できたことに感動しました子どもたちの力、頑張り、熱が隅々から伝わってくる音楽祭でした。一生懸命取り組む姿に心打たれました。挑戦してみる気持ちが改めて大切だなと思いました。大人の私も明日から頑張ろうと思えました。本当に感動しました。子どもたちの頑張っている姿を見て、自分の子どもが新しい何かを見つけてくれたらいいなと思いました。来てよかったです。ありがとうございました。

④講師の先生方からの卒業お祝いの歌と演奏の動画メッセージに対する返信メール

歌とメッセージありがとうございました。無事卒業できました。寂しく落ち込んでいる時に、「拝啓～十五のきみへ」を聞かせていただき、寂しさが嬉しさに変わりました。先生方、関わって下さった皆さんありがとうございました。教えてくださった先生方、みんなと協力した時間は決して忘れません。次の音楽祭も是非呼んでください。

子どもたちと先生方との心がお互いに通い合った瞬間を見せていただき、市子連本部の私たちも、やってきて良かったと思える瞬間でした。これが私の15年間本会に在籍している理由ではないでしょうか？

今年度も計画しています。そして昨年出てくれた子どもたちは中学生になっていますが、多くが本年度も参加してくれます。彼らはすでにお兄さんお姉さんぶりを発揮しています。

みなさん、子どもたちは友達を作るのが上手です。そしてそのことで信頼関係を築いていきます。そしてお互いに成長していきます。お父さんお母さんがあまり見たことがない現実が良い意味で目の前で広がっている光景が見られます。

私たちはこれからも子どもたち主体の活動を、多くの方のお力をお借りしながら続けてまいります。